

夏バテを吹き飛ばせ！～暑気払い～

7月最終日、ちくし恒例の暑気払いが催されました。調整ベタなイベント系のせいで日程が二転三転し、参加人数が少なめとなりましたが何とか参加者2ヶタを達成し宴会スタート。ちくしOBの田島君も参加してくれました。



今年も廣岡先生にプレゼントしていただいたお肉を、すき焼きにさせていただきました。ご馳走さまで

す。2000円/100gのお肉を食べる機会なんて一年に一回、この暑気払いの時だけではないでしょうか。みなさん、しっかり食べて今年の夏を乗り切りましょう。季節による食欲の変化が特にならない私が言うのもなんですが…。

すき焼きだけでは、物足りないのではないかとこの意見もあったのでたこ焼きの準備もしました。景気よきたこ焼き粉一袋全部を溶いて生

地の準備をしていたのですが…。たこ焼き機故障。分解して修理が試みられたのですが、残念ながら機能回復にいたらず。結局すき焼きとご飯だけになったのでした。それだけで充分おいしかったですけどね。

お腹がある程度満たされると、ちくしの歴史について先生からのプチ講義がありました。研究室の歴史について知る機会はありませんので貴重なお話でした。みんな多少はお酒が入っていたので、どの程度覚えているかは人によると思いますけど…。史実を肉声で聞けるのは、どんな歴史の勉強よりも面白いですね。さて、夜も更けて5階の研究室からは久しぶりにパチパチ音が聞かれました。その2時間後には、ダーツ部の活動が某スポーツランドで開催されたとか…。



下鴨神社御手洗祭足つけ神事

目次:

～広岡先生の随筆⑬～	2
意思決定について	
今月の畑	2
クリーン大作戦	3
乳等省令との戦い	3
学会情報	3
京都の夏祭り	4
統計育種遺伝研究会	4
ニューフェイス紹介	4
お知らせ	5

畜産システム研究会 < <http://www.soc.nii.ac.jp/chikusys/index.html> >

日差しが強まり、夏の到来を感じさせるようになった7月5日(土)、『畜産システム研究会第22回大会および総会』が京都大学農学部内講堂(w-214)で開催されました。今回のテーマは「自給飼料や地場資源を用いた乳肉生産の可能性」。畜産資源学研究室が畜産システム研究会の事務局を務めるようになって2年目、大会運営のお手伝いに借り出されるのは、一昨年の京都会館での開催に引き続き、今回で2回目となりました。前日の会場設営から準備に取り掛かり、当日は受付係、案内係、会場係の3チームに分かれて、暑い中それぞれの担当部署の任務を果たしました。事務の上原さんの周知な前準備のおかげで、混雑の予想された受付業務や会費徴収作業もスムーズでした。私はこのようなシンポジウムに参加させていただくのは初めてで、どきどきわく

わくしていましたが、総合討論も含め大変興味深く聞かせていただきました。卒業論文に考えている研究テーマと関連したお話も聞くことができ、勉強させていただきました。大会後のカンフォーラでの懇親会では、半端なくアウェーな感じでしたが、講演された方や、普段お目にかかれない先生ともお話することができ、いろんなことを教えていただきました。また、以前畜資に在籍されていた安松谷さんとも初めてお会いしました。初対面だったにもかかわらず、気さくな感じでやさしく話してくださり、ありがとうございました。

何日も前から準備に奔走されていた先生方、前日、当日のお手伝いの皆さん、お疲れ様でした。普段とは違うスーツ姿、みなさんカッコ良かったですよー！

暑い～というのが口癖になってしまうような毎日です。7月中は、猛暑日が12日もありました。一日の最高気温が30℃以上の日を真夏日、35℃以上の日を猛暑日と言うようですが、そろそろ「超猛暑日」なんて新語が出てくるかもしれません。ちなみに最低気温が30℃以上になる日を、超熱帯夜ということがあるらしいです。最近お引越しをしたばかりの酒井君は、新居のクーラーが故障していたため、3日間も水風呂と氷を食べながら寝苦しい夜をしのいだそうです(*_*). 羊たちは分厚い羊毛を着て、呼吸も荒くなっています。

好評連載 広岡先生の随筆

⑬意思決定について



私の好きな故事に「人生万事塞翁が馬」がある。この故事は人生の幸不幸は予測できないことをたとえたものであるが、この故事を思いだせば、何かを行って失敗してしまった時などに大いに慰められ、また勇気づけられる。

私はこの研究室に着任して7年目を迎えようとしているが、最初に最も困った点は研究室に関わる意思決定であった。ここに来るまでは、意思決定と言っても、単なる一人の研究者に過ぎなかったため、自分で意思決定をして、自分で責任を取ればよく、ある意味気楽であった。しかし、着任後は教授として一つの研究室を任されるようになったので、研究室の大きな意思決定はすべて私に委ねられており、選択を誤れば、研究室全体が被害を被ることになる。

さすがに7年も経つと、研究室の意思決定には慣れたが、今でも最も難しいのが学生の研究と将来に関係するような問題に直面した時の意思決定である。大学の研究室の長として最も責任の大きなものは、学生たちの将来を預っていると言う点である。とりわけ、博士課程の学生の場合、一つ一つの論文のでき不出来や学会発表の内容がそのまま学生の評価になり、一つ誤れば命取りになりかねない。また、学生たちを調査や関連研究機関に派遣する際などにも、本人の身の安全は当然のこと、相手先で何か問題が生じた時には、研究室の信用や信頼に関わることさえある。したがって、どの学生を派遣するかなどは、その学生の能力、技量、それに人間性まで考えて意思決定を行わなければならない。

そのような意思決定以外にも、学生から研究の方向性などについて相談を受け、どうすればよいかなどの意思決定を求められることがしばしばある。その意思決定が、場合によってはその学生の人生を変えることもあり得るので、慎重な対応が必要となる。研究室の問題であれば、私が意思決定を行い、私が責任を取れば、それはそれで研究室のメンバーや学生には迷惑をかけるかもしれないが、私の責任で何とかなることである。しかしながら、個々の学生に関する意思決定はその学生の人生を変えることもあるため、私が責任を取るのではなく、その大半を学生が責任を取ることになる。この種の意思決定は最も難しく、また正解が一つとは限らないので、非常に厄介である。本来、この種の意思決定は最終的には学生自らが意思決定をすべきことであり、私はアドバイザーにしかなり得ないものである。

しかし、それでも学生の中には、意思決定を私に求めてくるものがある。明らかに悪い方向にゆくと分かり切ったことについては、そのことをそのまま伝え、止めることにしているが、どちらがよいか判断できず、出たとこ勝負になるような内容については私も悩むことになる。一つ一つの可能性についてのアドバイスは可能であるが、その中でどの選択肢を選ぶかは最終的には本人の問題である。しかし、学生にとっては、私の即断がほしいようで、私も悩んでいると頼りなく見えるようである。

以前にも書いたことがあるが、私はこれまで、意思決定が必要な場面には、他人のアドバイスは十分に聞くが、最終的な意思決定は直感などを頼りに自分で行ってきた。従って、後悔はない。もちろん、他人に迷惑をかける可能性のあるような場合には、十分その旨を伝え、許可を得ることが必要不可欠である。また、そのような場合には、自分のことを犠牲にしても他人の立場に立つことは必要不可欠である。このような場合、最も重要なことは、自分の希望と意志をしっかりと相手に伝えることである。ここをあやふやにしたまま、意思決定をしてしまうと後に大きな誤解を受けることになる。

人生は万事塞翁が馬である。何が正しく、何が誤っているかは神のみぞ知るである。人のできることは、できる限り正確に起こり得ることを予測し、対応するのみである。しかし、それでもうまく行かないことが多い。それもまた人生である。われわれの研究室で起こってきたことを振り返っても、予想外のことの連続であった。そのような中で、さまざまな可能性を考えながら、しかし、自分の責任のもとで意思決定を行うのがわれわれにできる唯一のことである。このことは、私にはもちろんのこと学生にもあてはまることである。

誤解のないように繰り返し言うておくと、アドバイスを求められることは大歓迎である。しかし、意思決定を求められることはなかなかしんどいものである。

広岡博之



今月の畑

はくび会の畑の作物の最終の収穫が7月29日にありました。まだ畑には出来損ないの枝豆や蔓の立ってしまった大根も少し残っていますが…。収穫後に生殖さんの研究室で、はくび会選りすぐりメンバー（?!）でプチ打ち上げを行いました。突然の催しで連絡が届かなかった皆様、すみません。たくさん採れたみずみずしいトマトと焼きナスが美味しかったです！来年こそ枝豆豊作を願いつつ…。（ようこ）



クリーン大作戦

恒例の【クリーン大作戦】が、7月4日に行われました。梅雨時で蒸し暑いなか、農学部総合



館と北部生協の間の忘れ去られたようなスペースを、みんなで掃除しました。葉っぱを拾い集めたり、雑草を抜いたり、というの

が主な作業でしたが、なんせ本来あるべき姿がわからないので、どこまできれいにすればいいのだろう？という疑問を抱きつつ…とりあえず掃除しました(笑) 畜資は、研究室のメンバーに加えて、やぎたちもお掃除に参加♪いつもと違う周囲の状況に戸惑いを隠せないやぎたちでし

たが、葉っぱをきれいに食べたり、お掃除に精を出す人々に癒しを振りまいたりで大活躍してくれました☆



通りがあった他の研究室の方々に、たくさんかまってもらえて、よかったね★ 特に女の子に人気で、畜資の男性陣はちょっぴりうらやましそうに見えました。そんなこんなでしたが、無事、「来たときよりも美しく」することができ、クリーン大作戦は成功に終わりました！お掃除のあとには、美雪さんからのご褒美アイスクリームをごちそうになりました。やぎたちも食べたかったかなー??

コラム：一言一考 ⑤

「大人と子供」

子供は理想を追求し、大人は生存を選択する。どちらの追及もそれらの人生の段階において自然な心理である。人間というものには良く出来ていて、意識しないでも勝手に成長してってくれるので、自分であれこれするとも基本的には自然に至る。また、大人になっても理想を追求することは重要であり、子供心を忘れずにいる、バランスのとれた大人は素晴らしい。

(明太子)

乳等省令との戦い

山羊乳生産者の悩みのひとつに、『乳等省令』があります。乳等省令とは、「乳および乳製品の成分規格等に関する省令」のことで、昭和26年に厚生省から発令された乳や乳製品を販売する際の規格(品質や製造方法、販売に用いることのできる容器包装など)を定めた省令です。もちろん時代と共にちょこちょこ部分改定されています。山羊乳も乳製品ですからこの基準を満たさなくてはならないのですが、その基準の厳しさが山羊乳生産者の頭を悩ませているのです。殺菌山羊乳の成分規格は、無脂乳固形分8.0%以上、乳脂肪分3.6%以上となっています。しかし日本ザネン種の乳脂肪分は、この基準を下回る3.58%と報告されています(長野牧場)。私の知っている山羊農家さんも、「出産後の寒い時期(2~4月)は、乳脂率が

高いので殺菌山羊乳として販売できるが、夏場は乳脂率がガクンと落ちるので山羊乳としては販売できないので加工用にまわしている。何とか山羊乳を通年販売できないものか」と嘆いていらっやいます。全国山羊ネットワークや日本山羊研究会でも再三話題に上っています。対策として考えられるのは、①乳等省令の基準値を変える②乳脂率の高いヌビアンやトッゲンブルグといった品種の山羊を利用する③殺菌山羊乳としての販売をあきらめ、ヨーグルトやチーズに加工して販売するかのどれかです。但し、実際には日本における山羊乳の乳脂率データの蓄積量が少ないので、厚生省に基準値の変更を納得させることは難しいというのが有識者の見解のようです。

(ようこ)

お誕生日会



7月のお誕生日会が7月16日に行われました。7月のお誕生日さんは、大石先生とレニンさんと、今回のリクエストはガトーショコラとチーズケーキでした。ところが、お料理好きの妖精、ちかちゃんがあると3種類もケーキを作ってきてくれるというハプニング(?)で、みんな幸せいっぱいになったのでした〜。



～学会情報～

今年も夏の学会シーズンがやってきました。この夏、畜産資源学研究室からは、国内外で開催される各学会において以下の発表が行われます。

☆ 9th International Conference on Goats (第9回国際山羊会議、8月31日～9月5日、メキシコケレタロ州)

“Growth curve analysis in tropical breed and its crosses with temperate breed goats”

塚原洋子(D1)

☆ 平成20年度第58回関西畜産学会大会(9月2～3日、神戸大学)

「遺伝子型情報を用いた交配および選抜の最適化」西尾元秀(D1)

☆ AAAP(アジア・大洋州畜産学会)第13回大会(9月22～26日、ベトナムハノイ)

“A quantitative evaluation on nitrogen utilization in dairy-crop integration systems in Tarai, Nepal” 田端祐介(D3)

“The use of GPS and GIS for analyzing attributes affecting the distribution of grazing cattle in forested area” 兒嶋朋貴(M1)

Leccion de Espanol

7/11(金)からレニンさんのスペイン語講座が始まりました。毎週一回のペースで進めて行く予定だそうです。説明は大体英語で行われるので、筆者がどこまでついていけるか不安です…。

今までのレッスン3回のポイントは…

Numero Uno: 人称(?)代名詞と英語のbe動詞にあたる単語、serとestar、そして、場所を表す言葉(「ここ」と「高い」とか…)や簡単な挨拶も習いました。

Numero Dos: 今回習った重要動詞は英語のtake, goにあたるtomar, irでした。合わせて、自己紹介の表現も何種類か。宿題も出されました～。

Numero Tres: 3回目は名詞の性と数について勉強しました。どの言語もそうですが、「例外」の存在というのは辛いものです…。

レッスンのレベルが徐々に上がってきてついていけるか心配になってきましたが、スペイン語べらべらを目指して頑張りますよ！



発見！山羊乳ならぬ羊のミルク。160mlで400円って、高くないですかねえ…でも乳脂率は、6.0%でした！



ひつじアイスもありました。羊乳は乳脂率が高いので、クリームを加えなくてもアイスクリームができるそうです。315円。

京都の夏祭り

京都の夏のお祭りといえば、【祇園祭】ですよね。祇園祭は、大阪の天神祭、東京の神田祭(山王祭)とならんで、日本三大祭のひとつに数えられます。また、葵祭、時代祭とともに、京都三大祭にもなっています。祇園祭というと、宵山と山鉾巡行を思い浮かべる方も多いと思いますが、祇園祭そのものは、実は7月1日から31日までの1ヶ月間続きます。しかしメインはやはり山鉾巡行で、それ以降は規模が小さく、一説によると山鉾巡行以降に見物に行っても意味が無いというところから、「後の祭り」という諺が生まれたそうです。面白いですね。

祇園祭の歴史は古く、起源は869年にまでさかのぼると言われています。もともとは疫病を鎮めるために行ったのが始まりのようです。毎年行う

ようになったのは920年からだそうです。かなり



の歴史を感じます。祇園祭の山鉾は、歴史上所在の確実なものだけでも35基あります。いくつかはご

利益が判明していて、例えば保昌山は縁結び、油天神山は学業成就などとなっているそうです。

8月の京都も、五山の送り火や宇治川の花火大会など、歴史に触れ夏を感じられるイベントが目白押しですよ。特に五山の送り火は、研究室がある左京区北白川からとても近く、きれいにいることができるので、今から楽しみ♪♪

統計遺伝育種研究会

今年も6月に盛岡で開催された統計遺伝育種研究会に行ってきました。この研究会では主に統計育種の分野の人が集まって行われる勉強会みたいなもので、普段学会では出来ない深い議論が活発になされます。僕の研究テーマは研究室に同じ分野の人が少ないので、普段他の学生と研究について議論することが出来ないので、この研究会ではそれが出来るのでとても楽しいですね。今回も他の参加者の発表を聞いて研究に対して良い刺激を受けました。

また、この研究会は参加者が他の学会等でもよく会うメンバーなので、みんな非常に仲が良く、一緒にお酒を飲むのが楽しいです。今回もいつもどおり、研究会前日に盛岡に到着するとすぐに居酒屋で合流し、研究会に備えて英気を養いました。次の日も研究会2日目に備えて居酒屋で疲れた頭を回復させ、最終日には若干二日酔いになりながらも無事研究会を終えることが出来ました。また、来年の研究会が楽しみです。(記者N)

ニューフェイスのご紹介

前日の雷雨が何かの間違いだったかのように晴れ上がった7月29日(火)の昼下がりに、神戸市立六甲山牧場から6頭の羊たちがやってきました。羊たちは、今年1月生まれのコリデール(去勢雄)です。まだ、顔にちよっとあどけなさが残っています(^)。さすがに羊、動きが山羊とは違い、常にひとまとまりになっています。この暑い中、モコモコの毛皮を着てさらに暑そうです…。さて、この羊君たち、8月中旬から木村君、冬からはイクバルさんの実験に貢献する予定です。カニューレ装着手術(*.*)との噂もあります…。山羊と同様、基本的に実験中は担

当者が管理をしますが、頭数が増えたことで、腰麻痺の予防注射、毛刈り、削蹄などなどの任務が増えます。給餌量や飼育当番の人員増など、現在熊谷先生と山羊係りで調整中ですが、皆様のご協力をよろしくお願いします。



なお、山羊係では、羊の名前を大募集中です。どしどしご応募ください。山羊と違う系統の名前が集まるといいなあ…

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月は、夏休み中なのでゼミの予定はありません。10月から再開する予定です。後期のゼミの予定を作りますので、皆様のご都合をゼミ係りまでお知らせ下さい。

ゼミ係

今月のお誕生日会

8月のお誕生日さんは西尾さん(8/3)で、チョコレートケーキというお題を頂戴いたしました。日時は未定ですので、決まり次第ご連絡いたします。

イベント係

今月のおみや

石川県農業総合研究センター中央普及支援センターの高橋さんから、今年も大きなスイカを送って頂きました！昨年度の卒業生の金島さんからは、『人生初のお中元』と銘打って、ちゅるちゅるしたい麺類が届きました！ありがとうございます～！美味しく頂きました☆



研究室の動き

現在、椎野君 (M2) がネパールで研究中です。帰国は9月下旬の見込みです。8月18日(月)は、研究室のお引越しです。暑い最中の再度仮移転、お盆明け、院試前日と何かと大変な時期ですが、皆さん頑張りましょう！8月下旬から夏の学会シーズンに伴い、研究発表等で移動が激しくなります。海外渡航を予定している皆さんは、渡航手続をお忘れなく…

2008年 8月の飼育当番

日	月	火	水	木	金	土
1/27	28	29	30 熊谷先生・Iqubal 体重測定	31	1	2
3	4	5	6 田端・塚原 体重測定・予防注射	7	8	9
10	11	12	13 酒井・木村 体重測定・予防注射	14	15	16
17	18	19	20 竹内・Iqubal 体重測定・予防注射	21	22	23
24	25	26	27 大石先生・兒嶋 体重測定・予防注射	28	29	30
31	9/1	2	3 体重測定・予防注射	4	5	6

編集後記 新年度スタート！と思っていたら既に4ヶ月が経過してしまいました。新メンバーもすっかり溶け込んで、研究室の新しい雰囲気が出来上がった感じです。卒業生からのお中元なども届いて、時の移り変わりを感じます。さて、今月18日に畜資はお引越します。学生居室の新しい移転先は、S-566、S-568、S-570、S-572となりますので、久しぶりに研究室を訪問される方は、ご注意ください。なお、本移転は来春の予定です。